



9月23日(火)テニスの日
「三和荘テニス祭り」

■2025 年 10 月の予定表をお送りします。

夏が異常に暑かったので、30 度前後の気温でも過ごしやすく感じます。良く考えればすでに 10 月で、この分だと秋はなさそうです。いきなり冬になりそうで、テニスに最も良い季節が、ほとんどなくなりそうです。貴重なこの秋の季節に、快適なテニスを少しでも楽しみたいと思っていますので、ジュニアのみなさんもぜひ、がんばって参加してください。

■9月23日に、三和荘テニス祭り！

今年も三和荘さんのテニス祭りに FJTC として協力させていただきました。日本テニス協会の「テニスの日」協賛イベントとして、「テニス祭り」を開催し、レッスンや恒例のボレー大会など、1 日楽しんでいただきました。多くの方の参加をいただき、始めて硬式にチャ



レンジするジュニアも多く、普及の意味でも効果のあるイベントとなりました。的当ての景品として八光園・高瀬さんの「万願寺とうがらし」が用意されたり、市島の「オニギリ・アンド」さんの販売もあり、イベントらしいものになりました。

■熱中症や脱水、感染症にも注意！！



練習には多めのドリンク（できればスポーツドリンク）タオルをお忘れなく！手洗いとうがいを励行し、睡眠と食事もしっかり取って、免疫力の低下に注意！

テニスの豆知識

■国体について

滋賀県で国体（国民スポーツ大会・国スポ）が始まりました。かつては、このイベントが各府県のスポーツ強化のためには欠かせないもので、「天皇杯・皇后杯（総合 1 位、女子 1 位）」は 1964 年からは、ずっと開催府県が獲得するようになり、そのためには開催府県は国体に向けて人材を集めるようになりました。府県の裁量で雇用するには「教員」が手取り早いので、国体が開催される前には、体育の先生としてトップアスリートが教員になるケースが多くありました。その先生が国体後もその地域で、学校教育と共にその競技の普及強化につなげてくれています。前の京都国体も 30 年以上昔になりますが、須



知でホッケーが盛んになったり、京田辺でハンドボールが根付いたりしているのは、その時強化で来られた先生方のおかげです。また競技施設も各地に作られ、そういうレガシーが国体のメリットだったと言えます。「開催府県が天皇杯・皇后杯を取らなければならない！」という精神的縛りのおかげで、府県の予算では「国体のため」という理由が優先されたのです。しかしそのための莫大な経費（開催後もかかる）が府県を圧迫し、「無理に強化する必要はない。」「既存施設で、できる範囲で。」と考える府県も増えてきております。普通に考えれば、競技人口の多い「東京都」が 1 位になるはずなので、事実、近年は東京都が天皇杯・皇后杯を獲得しています。また、これだけ各種の大会が開催される中で、国体の意義そのものにも、見直しの時期が来ているように思います。

次のエントリーは MUFG とウィンタージュニアです。

FJTC福知山ジュニアテニスクラブ（京都共栄学園内）

620-0933 福知山市篠尾62-5 tel.0773-22-6241 <http://www.fjtc.jp>

代表・京都府テニス協会理事 國田 敦・090-3058-5576 Mail: info@kyoei.ed.jp